

2020 年度

# 授業計画

<シラバス>

Ver. 2

1 年次



学校法人コア学園  
秋田リハビリテーション学院

Akita Rehabilitation College



# 目 次

2020（令和2年）年度 行事予定 .....	2
2020（令和2年）年度 学年歴 .....	3
必修科目単位数, 選択科目単位数及び卒業要件.....	4
教育課程表.....	5
1年次 授業時間割表 .....	7
1年次 基礎科目.....	11
1年次 専門基礎科目 .....	25
1年次 専門科目.....	37

## 2020（令和2年）年度 行事予定

学年開始	4月 1日（水）
在学生前期ガイダンス	4月 1日（水）
新入生ガイダンス	4月 3日（金）
入学式・新入生オリエンテーション	4月 7日（火）
<b>前期講義開始</b>	4月 6日（月）
臨床実習（4年生）	4月 6日（月）～9月19日（土）7週×2回×3期
結核検診（1年生）	4月15日（水）
健康診断（1・4年生）	4月15日（水）
健康診断（2・3年生）	4月16日（木）
創立記念日	5月 1日（金）
前期ミッドセメスターブレイク	6月 1日（月）～5日（金）
コア学園合同説明会	6月17日（水）
第1回 オープンキャンパス	6月27日（土）
第2回 オープンキャンパス	7月23日（木・祝）
<b>前期講義終了</b>	7月31日（金）
前期定期試験期間	8月 3日（月）～7日（金）
夏季休業	8月17日（月）～9月27日（日）
第3回 オープンキャンパス	8月22日（土）
合同就職説明会	9月25日（木）
後期ガイダンス	9月 日（）
第4回 オープンキャンパス	9月19日（土）
<b>後期講義開始</b>	9月28日（月）
第5回 公開講座	10月10日（土）
後期ミッドセメスターブレイク	11月24日（火）～27日（金）
第4回 臨床実習指導者会議	11月27日（金）
海外研修（オーストラリア）	11月 日（）～ 月 日（）
冬季休業	12月21日（月）～1月3日（日）
<b>後期講義終了</b>	2月 5日（金）
後期定期試験期間	2月 8日（月）～12日（金）
基礎実習（1年生）	2月 日（月）～ 日（水）
春季休業	2月17日（月）～3月31日（火）
評価実習（3年生）	2月 1日（月）～3月13日（土）3週×2回×2期
第56回 理学療法士国家試験	2月 日（）
第3期生 卒業式	3月10日（水）
第5回 オープンキャンパス	3月20日（土）
学年終了	3月31日（水）

2020（令和2年）年度 学年歴

	月	火	水	木	金	土	日		月	火	水	木	金	土	日	
4月			4年生 ガイダンス 2・3年生 ガイダンス	2	新入生 ガイダンス	4	5	10月				1	2	指定校推 薦	4	
	6	入学式	8	9	10	11	12		5	6	7	8	9	公開 講座	11	
	13	14	15	16	17	18	19		12	13	14	15	16	17	18	
	20	21	22	23	24	25	26		19	20	21	22	23	24	推薦I入 試	25
	27	28	29	30					26	27	28	29	30	31		
5月					1	2	3	11月							1	
	4	5	6	7	8	9	10		2	3	4	5	6	7	8	
	11	12	13	14	15	16	17		9	10	11	12	13	推薦IIA 社会人A	15	
	18	19	20	21	22	23	24		16	17	18	19	20	21	22	
	25	26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	
									30							
6月	1	2	3	4	5	6	7	12月		1	2	3	4	5	6	
	8	9	10	11	12	13	14		7	8	9	10	11	推薦IIB 社会人B	13	
	15	16	学校説 明会	18	19	20	21		14	15	16	17	18	19	20	
	22	23	24	25	26	オープン キャンパス	28		21	22	23	24	25	26	27	
	29	30							28	29	30	31				
7月			1	2	3	4	5	1月					1	2	3	
	6	7	8	9	10	11	12		4	5	6	7	8	9	10	
	13	14	15	16	17	18	19		11	12	13	14	15	16	17	
	20	21	22	23	24	オープン キャンパス	26		18	19	20	21	22	23	24	
	27	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	31	
8月						1	2	2月	1	2	3	4	5	一般前期 入試	7	
	3	4	5	6	7	8	9		8	9	10	11	12	13	14	
	10	11	12	13	14	15	16		15	16	17	18	19	20	21	
	17	18	19	20	21	オープン キャンパス	23		22	23	24	25	26	27	28	
	24	25	26	27	28	29	30									
	31															
9月		1	2	3	4	5	6	3月		1	2	3	4	一般後期 入試	6	
	7	8	9	10	11	12	13		7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18	オープン キャンパス	20		14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27		21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30						28	29	30	31				

緑色：講義

黄色：ミッドセメスターブレイク期間（個人面談や復習、中間試験等のための休講期間になります。）

灰色：試験期間（翌週は試験予備日）

水色：学院休館日（休館日・図書室含む）

前期講義開始：4月6日（月）前期MSB：6月1日（月）～5日（金） MSB; Mid Semester Break

後期講義開始：9月28日（月）後期MSB：11月24日（火）～27日（金）

\* 4年生 臨床実習⇒I期4/6（月）～5/30（土）・II期6/8（月）～7/25（土）・III期8/3（月）～9/19（土）

\* 3年生 評価実習⇒<前半グループ>2/1（月）～2/20（土）・<後半グループ>2/22（月）～3/13（土）

\* 1年生 基礎実習⇒/（月）～（水）

### 必修科目単位数，選択科目単位数及び卒業要件

		開講 単位数	必修	選択	卒業要件単位数		教育内容	指定 規則
						計		
基礎 科目	英語	5	5		5	19	科学的思考の基礎 人間生活	14
	体育	2	2		2			
	学びへの導入セミナー	1	1		1			
	人文系	5	3	3	4			
	社会学系	3	3		3			
	理学・統計・情報系	5	3	2	4			
専門 基礎 科目	基礎医学系	15	15		15	36	人体の構造と機能及び心 身の発達	12
	臨床医学系	14	14		14		疾病と傷がいの成り立ち 及び回復過程の促進	14
	リハビリテーション	4	4		4		保健医療福祉と リハビリテーションの 理念	4
	社会医学・保健医療	4	2	2	3			
専門 科目	基礎理学療法学	11	11		11	69		6
	理学療法管理学	2	2		2			2
	理学療法評価学	6	6		6			6
	理学療法治療学	22	22		22			20
	地域理学療法学	5	4	1	4			3
	評価実習・臨床実習	20	20		20			18
	卒業研究	4	4		4			
		128	120	8	124	124		101

表1 (学年別科目別必要単位数)

	単位		開講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件 必要単位数	指定規則に 定める単位数
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎科目	16	5	375	195	105	45	0	0	30	0	0	19	14
				300		45		30		0			
専門基礎 科目	35	2	825	180	255	195	105	90	30	0	0	36	30
				435		270		120		0			
専門科目	69	1	2255	90	130	210	310	370	285	650	210	69	57
				220		520		655		860			
全体	120	8	3455	465	460	450	415	460	345	650	210	124	101
				925		865		805		860			

\*4年次への進級条件は3年次までの必修科目の単位をすべて修得していること。

表2 (単位認定に係る成績判定)

合否判定	成績の合否判定は学習態度及び試験結果等を基に総合的に合否を判定する	
合否判定基準と 評語	成績は次の評語をもって表す。 100～90点 S 90未満～80点 A 80未満～70点 B 70未満～60点 C 60点未満 D	S、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。 不合格科目(D)は次年度以降、再履修できる。

# 教育課程表

## 基礎科目

授業科目	単位		開講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要 件必要 単位数	指定規 則に定 める単 位数	
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語 (reading & writing)	2		60	30	30							5	14	
英語 (communication)	2		30		30									
医療英語	1		15			15								
体育理論	1		15	15								2		
体育実技	1		30	30										
学びへの導入セミナー	1		15	15								5		
哲学		1	15	15										
倫理学		1	15	15										
心理学	2		30	30										
教育学		1	15	15										
社会学	1		15			15						3		
生涯学習学	1		15	15										
社会福祉学	1		30		30									
応用統計学	2		30						30			4		
物理学	1		15	15										
情報リテラシー		1	15			15								
情報セキュリティ・モラル		1	15			15								
<b>基礎科目全体</b>	<b>16</b>	<b>5</b>	<b>375</b>	<b>195</b>	<b>105</b>	<b>45</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>30</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>19</b>	<b>14</b>	
				<b>300</b>		<b>45</b>		<b>30</b>		<b>0</b>				

## 専門基礎科目

授業科目	単位		開講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要 件必要 単位数	指定規 則に定 める単 位数			
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
人体構造学	2		60	30	30							15	12			
人体構造学実習	1		60	30	30											
人体機能学	2		60	60												
人体機能学実習	1		45		45											
触診解剖学	1		30			30										
運動生理学	1		30		30											
運動学 I	1		30		30											
運動学 II	1		30			30										
運動学実習	1		45			45										
栄養学	1		15	15												
薬理学	1		15			15										
人間発達学	1		30		30											
臨床心理学	1		30				30									
病理学	1		30		30							14	14			
医学概論	1		15	15												
内科学一般	1		15			15										
内科学(循環)	1		15				15									
内科学(呼吸)	1		15				15									
小児科学	1		15			15										
神経内科学	2		30				30									
精神科学	1		15			15										
筋骨格障害学	2		30			30										
脳神経科学	1		15				15									
救急医学	2		30					30								
リハビリテーション概論	2		30	30										4	4	
看護学概論	1		15					15								
作業療法学概論	1		15					15								
公衆衛生学		1	15					15								
医療福祉関連職種連携論	2		30						30			3				
福祉工学		1	15					15								
<b>専門基礎科目全体</b>	<b>35</b>	<b>2</b>	<b>825</b>	<b>180</b>	<b>225</b>	<b>195</b>	<b>105</b>	<b>90</b>	<b>30</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>36</b>	<b>30</b>			
				<b>405</b>		<b>300</b>		<b>120</b>		<b>0</b>						

専門科目

授業科目	単位		開講 時間数	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要 件必要 単位数	指定規 則に定 める単 位数
	必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
理学療法学概論	2		30	30								11	6
臨床運動学	1		30					30					
理学療法学スキル I-1	1		30	30									
理学療法学スキル I-2	1		30		30								
理学療法学スキル II-1	1		30			30							
理学療法学スキル II-2	1		30				30						
理学療法学スキル III-1	1		30					30					
理学療法学スキル III-2	1		30						30				
理学療法教育学(職業倫理)	1		15						15				
理学療法研究法	1		15						15				
理学療法管理学	2		30			30					2	2	
理学療法評価学概論	1		30	30							6	6	
理学療法評価学(基礎)	1		30		30								
理学療法評価学(関節可動域)	1		30			30							
理学療法評価学(MMT)	1		30				30						
理学療法評価学(画像評価)	1		30					30					
高次脳機障害学	1		30			30							
運動療法学	1		30			30							
基礎運動器系理学療法学	1		30				30						
臨床運動器系理学療法学	1		30					30					
スポーツ理学療法学	1		30						30				
基礎神経系理学療法学	1		30				30						
応用神経系理学療法学	1		30					30					
神経発達学的治療学	1		30						30				
基礎循環代謝系理学療法学	1		30				30						
呼吸器系理学療法学	1		30					30					
応用循環代謝系理学療法学	1		30						30				
小児理学療法学	1		30						30				
マニュアルセラピー	1		30					30					
予防的理学療法学	1		30						30				
物理療法学	1		30			30							
物理療法学演習	1		30				30						
義肢学	1		30				30						
装具学	1		30					30					
高齢者理学療法学	1		15						15				
日常生活活動学	1		30		30								
理学療法学総論	3		90							90			
地域リハビリテーション	1		30				30				4	3	
在宅生活環境学	1		30			30							
在宅理学療法学	1		30				30						
在宅理学療法学演習	1		30					30					
国際理学療法学特論		1	30							30			
基礎実習	1		40		40						20	20	
地域リハビリテーション実習	1		40				40						
評価実習	4		160					160					
臨床実習I	7		280						280				
臨床実習II	7		280						280				
卒業研究	4		180						90	90			
専門科目全体	69	1	2255	90	130	210	310	370	285	650	210	69	57
				220		520		655		860			

1年生

前期前半 4月8日～5月29日

	月	火	水	木	金
1 09:00 ～ 10:30	人体構造学	放送大学	心理学	放送大学	放送大学
2 10:40 ～ 12:10	人体構造学 実習	理学療法学概 論	放送大学	理学療法学ス キル	英語 R&W
3 13:00 ～ 14:30	医学概論		学びへの導入 セミナー	理学療法診断 学 I-1	人体機能学
4 14:40 ～ 16:10	体育理論/体育 実技				人体機能学
5 16:20 ～ 17:50	体育理論/体育 実技	倫理学		リハビリテーショ ン概論	

※解剖学実習(@秋田大学医学部) 5月20日(水)③④⑤ 6月3日(水)③④⑤

1年生

前期後半 6月8日～7月31日

	月	火	水	木	金
1 09:00 ～ 10:30	放送大学	放送大学	心理学	放送大学	放送大学
2 10:40 ～ 12:10	人体構造学	理学療法学概 論	栄養学	理学療法学ス キル	英語 R&W
3 13:00 ～ 14:30	人体構造学 実習	生涯学習学		理学療法診断 学 I-1	人体機能学
4 14:40 ～ 16:10	体育実技	物理学			人体機能学
5 16:20 ～ 17:50	体育実技	哲学		リハビリテーショ ン概論	

1年生

後期前半 9月28日～11月20日

	月	火	水	木	金
1 09:00 ～ 10:30	放送大学	放送大学	人間発達学	英語 R&W	放送大学
2 10:40 ～ 12:10	人体構造学	理学療法評価 法概論	情報セキュリティ・モラル	放送大学	英語 Communication
3 13:00 ～ 14:30	人体構造学 実習	人体機能学実 習	理学療法学ス キル	社会福祉学	日常生活活動 学
4 14:40 ～ 16:10	病理学	人体機能学実 習	病理学予備日	教育学	運動学 I
5 16:20 ～ 17:50		人体機能学実 習			

1年生

後期後半 11月30日～2月5日

	月	火	水	木	金
1 09:00 ～ 10:30	放送大学	放送大学	人間発達学	英語 R&W	放送大学
2 10:40 ～ 12:10	人体構造学	理学療法評価 法概論	理学療法学ス キル	放送大学	英語 Communication
3 13:00 ～ 14:30	人体構造学 実習	運動生理学		社会福祉学	日常生活活動 学
4 14:40 ～ 16:10	病理学	運動生理学	病理学予備日	運動学 I	
5 16:20 ～ 17:50					

## 1 年次 基礎科目

科目名	英語 (Reading & Writing)		対象年次	1年次	授業時間数	60
基礎 科目 1			開講時期	通年	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名	大西 洋一	所属	秋田大学 教育文化学部			
授業目的	健康に関わる文章を集めた総合英語教科書を使用して、英文読解力、英語語彙力、そして英作文力を伸長させることを目的とする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関わる標準的な英文を読解できる。</li> <li>・健康に関わる基本的な語彙を理解できる。</li> <li>・基本的文法を理解した上で、平易な英文を書くことができる。</li> </ul>					
授業計画	<p>授業は、基本的に教科書の内容に沿って、以下のように進行する予定である。</p> <p>第1・2回 授業説明 および Unit 1: What Country Is the Fattest in the World? (世界で肥満率が高い国)</p> <p>第3・4回 Unit 2: What Do We Know about Sleep Talking? (寝言と睡眠)</p> <p>第5・6回 Unit 3: Why Are Bug Bites Dangerous? (虫刺されに御用心)</p> <p>第7・8回 Unit 4: What Kind of Bacteria Can Be Found in the Great Barrier Reef? (綺麗な海に潜む危険)</p> <p>第9・10回 Unit 5: How Much Caffeine Can We Take? (カフェイン依存の生活の問題)</p> <p>第11・12回 Unit 6: How Does the Love Hormone Oxytocin Work to Improve Relationships? (オキシトシンが関わる人間関係)</p> <p>第13・14回 Unit 7: What Can Happen When You're Too Clean? (潔癖症っていいことづくめ?)</p> <p>第15回 復習 および 教科書付復習テスト</p> <p>第16・17回 Unit 8: Does Gender Affect Cancer Susceptibility? (性差と癌)</p> <p>第18・19回 Unit 9: Why Do Many of Us Develop Fear of Heights with Age? (老化と高所恐怖症)</p> <p>第20・21回 Unit 10: What Are the Dangers of a Sweltering Summer? (夏に潜む危険)</p> <p>第22・23回 Unit 11: Which Makes a Better Athlete, Being a Night Owl or an Early Bird? (スポーツ選手に有利なのは、朝型人間、それとも夜型人間?)</p> <p>第24・25回 Unit 12: How Better to Release Your Stress? (ストレスコントロール)</p> <p>第26・27回 Unit 13: What Are the Differences between Real and Robotic Pets? (ロボペットと本物のペット、どちらを選ぶ?)</p> <p>第28・29回 教科書に掲載された医療関係英語表現のまとめ</p> <p>第30回 復習 および 教科書付復習テスト</p>					
成績評価	授業への参加状況、小テスト、確認試験の結果等により総合的に判定。					
教科書	西原俊明 / 西原真弓 / Pino Cutrone (著) 『Good Health, Better Life: 健康的な生活から学ぶ大学総合英語』(金星堂) [ISBN:978-4-7647-4078-5]					
参考書						
オフィス・アワー	授業終了後10分。					

科目名	英語 (Communication)	対象年次	1年次	授業時間数	30
基礎 科目 2		開講時期	後期	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名	アドコック・ロナルド	所属	元聖霊女子短期大学講師		
授業目的	To help the students be able to communicate more effectively in English for caregiving and daily conversation.				
到達目標	The students will strengthen their caregiving vocabulary. The students will become more comfortable using English as a means of communication.				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduce class and self-introduction.</li> <li>2. Unit 1</li> <li>3. Unit 1; Topic Talk</li> <li>4. Unit 2: Mobility</li> <li>5. Unit 2; Topic Talk</li> <li>6. Unit 3: Meals</li> <li>7. Unit 3</li> <li>8. Unit 4: Toilet</li> <li>9. Unit 4; Topic Talk</li> <li>10. Unit 5: Bath</li> <li>11. Unit 5; Topic Talk</li> <li>12. Unit 6: Dressing and Grooming</li> <li>13. Unit 6</li> <li>14. Unit 8: Recreational Activities</li> <li>15. Unit 8</li> </ol>				
成績評価	授業態度, 小テスト, レポート, 筆記試験結果等を総合的にみて判定.				
教科書	A Helping Hand. Masako Shimizu. Nan' un-do, ISBN978-4-523-17557-5				
参考書	特に定めない。				
オフィス・アワー	授業終了後10分。				

科目名	体育理論		対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目 4			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	重川 敬三	所属	日本赤十字秋田看護大学			
授業目的	スポーツ・バイオメカニクス及び健康運動学の基礎的理論について学ぶ。 スポーツ文化と社会との関わりについて学ぶ。					
到達目標	(1) 体力や運動のしくみについて説明できる。 (2) 健康を維持・増進するための身体活動について理解している。 (3) 講義で得られた知識を自己のスポーツ生活に反映できる。					
授業計画	<p><b>【進行予定と進め方】</b></p> <p>第1回 WHOにおける健康の定義について</p> <p>第2回 Spiritual health と身心の健康について</p> <p>第3回 身体活動時のエネルギー供給・筋肉の働き</p> <p>第4回 身体活動時における心肺機能と循環器系の応答について</p> <p>第5回 健康の維持増進のための生活体力について</p> <p>第6回 生活習慣病の食傾向とその改善について</p> <p>第7回 メタボリックシンドロームの予防改善と身体活動との関連</p> <p>第8回 まとめ・スポーツ文化のゆくえ</p> <p>※講義内容の順番は変更することがある。</p>					
成績評価	授業態度，レポート，筆記試験結果等を総合的にみて判定。					
教科書	特に指定しない。					
参考書	特に指定しない。					
オフィス・アワー	授業終了後10分。					

科目名	体育実技		対象年次	1年次	授業時間数	30
基礎科目 5			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	重川 敬三	所属	日本赤十字秋田看護大学			
授業目的	生涯にわたってスポーツ文化を享受するために必要な知識、運動技能を身につけ、スポーツ実践能力を養い高めることを目的とする。					
到達目標	選択したスポーツ種目の知識と基礎的な運動技能を習得する。 (1) 基礎的なゲームを行うことができる。 (2) 基礎的なルールを守っている。 (3) 基礎的な運動技能を身につけている。					
授業計画	<p><b>【進行予定と進め方】</b>          スポーツ種目を受講生が主体的に選択し、その種目の知識と基礎的な運動技能を習得し、ゲームについて学習する。          実施種目：バスケットボール、バレーボール、バドミントン、レクリエーションゲーム</p> <p>第1回 ガイダンス 種目選択</p> <p>第2～4回 基礎的技能的習得とルールの理解</p> <p>第5～8回 ゲームのなかで基礎的技能的を深める</p> <p>第9～10回 基礎的技能的を活用した戦術の理解</p> <p>第11～13回 ゲームのなかで基礎的な戦術を高める</p> <p>第14～15回 まとめ、運動技能の評価</p> <p>各回の基本的な授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 出席、課題の提示</li> <li>2 準備運動</li> <li>3 基礎体力を高めるための運動</li> <li>4 種目ごとに用具等の準備</li> <li>5 技術練習</li> <li>6 ゲーム</li> <li>7 片付け</li> <li>8 出席確認、まとめ</li> </ol>					
成績評価	出席状況、スキルテスト等を総合して行う。ゲームを行うための基礎的な技能を習得していること。授業でルールを守り積極的に活動していること。					
教科書	特に指定しない。					
参考書	特に指定しない。					
オフィス・アワー	授業終了後10分。					

科目名			対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目 6	学びへの導入セミナー		開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	靱山 日出樹	所属	秋田リハビリテーション学院			
	木元 裕介	所属	同上			
	伊藤 昭	所属	同上			
授業目的	四年間の学生生活を円滑に過ごすためのオリエンテーションを受けた後、カリキュラムの意義、学習の仕方・進め方、さらに人と接する上で必要最低限の基本的態度を理解した上で、教員および他の学生とのコミュニケーションを図り、今後の学習において生じた問題の解決に役立たせる概略的な術を学ぶ。					
到達目標	学生としての活動的な日常生活が円滑に過ごせるようになり、学習の仕方、進め方を理解した上で、教員の助言を受けながら、グループ編成を組み、各グループで一課題を設定し、その課題への取り組み方（プログラミング）、資料の収集・調査、議論、総括、報告を実経験することで、今後の学習の礎とすることを目標とする。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 有意義な学生生活を送るためのオリエンテーション(靱山) (4/8、3限) <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人としての学生が守るべき社会規範について</li> <li>・学則、学生便覧、シラバスについて</li> </ul> </li> <li>2. 理学療法士になるために必要な学習について (靱山) (4/8、4限) <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題と情報リテラシー</li> <li>・レポートとは；一般的な体裁とまとめ方について</li> </ul> </li> <li>3. Edunavi とアクトランについて (木元) (4/14)</li> <li>4. ビジュランとスマコクについて (木元) (4/21)</li> <li>5. 情報収集の整理 Word (木元先生) (4/28)</li> <li>6. 情報収集の整理 Excel (伊藤先生) (5/12)</li> <li>7. 情報収集の整理 Excel (伊藤先生) (5/19)</li> <li>8. 情報収集と整理 Powerpoint&amp;weclass (靱山) (5/26)</li> </ol>					
成績評価	授業態度、出席及び課題に取り組んでいる態度を総合的にみて判定。					
教科書	なし					
参考書	なし					
オフィス・アワー	授業終了後、随時。					

科目名	哲学		対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目 7			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	鈴木 祐丞	所属	秋田県立大学 総合科学教育研究センター			
授業目的	「ジェンダー」(いわゆる「性別」)をテーマに哲学的な考察を行う。考察の基礎となる知識を確認したあと、まず、「女性」「男性」とはそもそも何のことか、それらの概念の必要性や有用性などについて、関連する哲学者の思想などを手がかりにして考える。その後、ジェンダーに関連する具体的な諸問題をめぐって、対話的に考えを深める					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 哲学とはどのような営みか説明できる。</li> <li>2. ジェンダーに関する基礎知識を説明できる。</li> <li>3. ジェンダーに関する諸思想を説明できる。</li> <li>4. ジェンダーについて哲学的に考えることができる。</li> </ol>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業についての説明／哲学とは何か／「ジェンダー」と哲学</li> <li>2. ジェンダーに関する基礎知識 (1)</li> <li>3. ジェンダーに関する基礎知識 (2) /性的マイノリティとして生きるとはどういうことか (映像資料の視聴)</li> <li>4. J. バトラー『ジェンダー・トラブル』の思想 (1)</li> <li>5. J. バトラー『ジェンダー・トラブル』の思想 (2)</li> <li>6. 同性婚について考える——「自由」と「承認」の見地から</li> <li>7. 竿燈まつりへの女性の参加について考える (1)</li> <li>8. 竿燈まつりへの女性の参加について考える (2)</li> </ol>					
成績評価	平常点 (出席状況、受講態度、授業内レポートの内容、討議への貢献度など) 70%、 期末レポートの内容 30%					
教科書	使用しない					
参考書	授業中に適宜紹介する					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	倫理学		対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目 8			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	鈴木 祐丞	所属	秋田県立大学 総合科学教育研究センター			
授業目的	「倫理」について（これまでより）自覚的になって生きることを目指す。そのために、われわれの身近に点在している倫理的問題をいくつか取り上げ、どこに正しさがあるかを考えていく。受講生には、それぞれの問題について、私（鈴木）や他の受講生との対話を通じて、自分自身の考えを形成してもらう。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業で取り上げる倫理的問題の概要を説明することができる。</li> <li>2. それらの問題について自分自身の考えを述べることができる。</li> <li>3. 倫理的問題の存在に気づき、それらについて主体的に考察できる。</li> </ol>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業についての説明／倫理（学）とは何か／人間にとって倫理とは何か（1）：「骨髄バンクに登録すべきか」という問題を事例として</li> <li>2. 人間にとって倫理とは何か（2）：「骨髄バンクに登録すべきか」という問題を事例として（つづき）</li> <li>3. 人間にとって倫理とは何か（3）：「骨髄バンクに登録すべきか」という問題を事例として（つづき）</li> <li>4. （新型）出生前診断と選択的人工妊娠中絶（1）</li> <li>5. （新型）出生前診断と選択的人工妊娠中絶（2）</li> <li>6. 脳死と臓器移植</li> <li>7. 安楽死（1）</li> <li>8. 安楽死（2）</li> </ol>					
成績評価	平常点（出席状況、受講態度、授業内レポートの内容、討議への貢献度など）70%、期末レポートの内容30%					
教科書	使用しない。					
参考書	授業中に適宜紹介する。					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	心理学		対象年次	1年次	授業時間数	30
基礎科目 9			開講時期	前期	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名	森 和彦	所属	秋田大学教育文化学部			
授業目的	心理学という学問の考え方、得られた心理学的知見、現代心理学のトピックスについて主体的に学ぶ。					
到達目標	心理学という学問の概観を理解して、テキスト編集者のつもりで自分に理解可能な楽しい心理学の教科書を作成する。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学への問い：心の定義や心身論について学習前の考え方や見方を確認し合う。</li> <li>2. 科学としての心理学は成立するのか？心とは何か？何を探求すべきか</li> <li>3. システム概念としての心について</li> <li>4. 心理学の方法：心を数量化する！？</li> <li>5. 性格とは何か？性格検査の種類、YG 性格検査結果の読み方</li> <li>6. 気質・個性を認めるとはどういうことか？</li> <li>7. 自己認知の歪み</li> <li>8. 対人認知の歪み</li> <li>9. 集団社会心理学：個人と集団で心はどう違うのか？</li> <li>10. 事故対策と注意</li> <li>11. 注意の種類と役割</li> <li>12. 色の知覚：色は物理学ではない！</li> <li>13. 奥行の知覚：深い浅いはどうやって知るのか？</li> <li>14. 運動知覚とその役割</li> <li>15. 聴覚：私達は物理的に存在しない音も聴いている。</li> </ol>					
成績評価	授業態度，小テスト，テキスト作成試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	教科書を自分で作っていただきます。					
参考書	参考書は随時紹介します。“A”以上を獲得した先輩のテキスト					
オフィス・アワー	初回授業時にお知らせします。					

科目名	教育学		対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目 10			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	濱田 陽	所属	秋田大学 高等教育グローバルセンター			
授業目的	動機づけ理論を学び、自らの学習・経験を振り返り、将来に生かす。					
到達目標	代表的な動機づけ理論の基礎が理解できる。 動機理論を実践と結び付け、体験的に習得ができる。 分かりやすい発表技術を身につけることができる。					
授業計画	<p>本講座では、教育学の、教育心理学の分野に位置づけされる「動機づけ理論」について学ぶ。</p> <p>第一回 オリエンテーションと動機理論入門  第二回 内発的動機づけ  第三回 自己決定理論  第四回 達成目標理論  第五回 セルフ・エフィカシー  第六回 自己制御学習  第七回 学習性無力感  第八回 まとめ</p> <p>第二回～七回では、各理論の基礎を理解し、関連するキーワードを習得し、それらを自らの過去や未来の経験と結び付けて、体験的に習得できるような活動を行う。また、パワーポイントを用いて、聴講者に分かりやすい基本的な技術も習得する。</p> <p>毎回の授業の進め方の予定  7. 当日のテーマのプレゼン1  8. 当日のテーマのプレゼン2  9. グループ討議  10. 全体討議  11. ペア・グループレビュー  まとめの確認テスト</p>					
成績評価	筆記試験・チェックテスト・発表・授業参加態度					
教科書	モチベーションをまなぶ12の理論（金剛出版）					
参考書	特に定めない。					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	生涯学習学	対象年次	1 年次	授業時間数	15
基礎科目 12		開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	澤井 範夫	所属	前 秋田大学教育文化学部 常勤講師		
授業目的	生涯学習の概念、意義、必要性を中央教育審議会の答申などを通して、説明、解説する。また、生涯学習の提唱から現在に至る国及び秋田県の生涯学習を概観するとともに、行政、民間、地域社会などとの関係を考察して、豊かな生涯学習社会を形成するための課題と方向性を検討する。				
到達目標	我が国及び秋田県の生涯学習の推進や支援の在り方を考察することにより、生涯学習の必要性を理解する。また、生涯学習に対する意欲と関心を身につけることにより、生涯にわたって生きがいのある充実した生活を目指すとともに、地域社会に貢献できる資質や能力を身に付ける。				
授業計画	<p>第1回 生涯学習の意義 生涯学習とは何かを、生涯学習に関する認知度を把握した上で、中央教育審議会の答申などを通じて理解する。また、人間の発達段階との関係や生涯学習の内容についても考察する。</p> <p>第2回 生涯学習の理念の誕生と我が国の生涯学習の歩み 生涯学習がいつどこで、誰によって、何故提唱されたかを考察するとともに、我が国の生涯学習がどのように進められてきたかを概観する。</p> <p>第3回 全国に先駆けた秋田県の生涯学習 1970（昭和45）年、秋田県は全国に先駆けて生涯学習の推進に取り組んだが、当時の知事小畑勇二郎が、何故生涯学習に取り組んだかを探るとともに、生涯学習センターの歩みを通して秋田県の生涯学習を概観する。</p> <p>第4回 生涯学習と学校教育、社会教育、家庭教育との関係 生涯学習を推進するにあたって、学校教育、社会教育、家庭教育がどのような役割を果たしているかを考察する。</p> <p>第5回 生涯学習の形態及び方法 生涯学習に関して、人々はどのような形態及び方法で学習しているかについて考察する。</p> <p>第6回 行政による生涯学習の推進とNPM（新公共経営） 人々の生涯学習を推進する上で行政の果たす役割は大きい、ここでは特にNPM（新公共経営）について考察を深める。</p> <p>第7回 生涯学習を支える施設－社会教育施設を中心に－ 数多くある生涯学習施設の中で、社会教育施設の中心である、公民館、図書館、博物館を取り上げて考察する。</p> <p>第8回 生涯学習を支える人々、ボランティア活動、これからの生涯学習 生涯学習の支援にかかわる人々と、ボランティア活動について考察する。併せて、今後、自分がどのように生涯学習に向き合っていくかを考える。</p>				
成績評価	授業態度、受講調査票、レポート、筆記試験等の結果を総合的にみて、判定する。				
教科書	教科書なし。 授業のためのレジュメ及び資料を配布する。				
参考書	香川正弘・鈴木真理・永井健夫編『よくわかる生涯学習』（ミネルヴァ書房）				
オフィス・アワー	毎授業後。				

科目名	社会福祉学		対象年次	1年次	授業時間数	30
基礎科目 13			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	落合 晶子	所属	聖霊女子短期大学 生活文化科生活子ども専攻 非常勤講師			
授業目的	<p>○自分の生活や社会を取りまく諸問題と福祉の関わりについて関心を深める。</p> <p>○社会福祉に関する基礎知識を身に着けるとともに、理学療法士としての福祉との関わり方を学ぶ。</p>					
到達目標	<p>○社会福祉の制度や施設等について理解する。</p> <p>○理学療法士として福祉との関わり方について理解する。</p>					
授業計画	<p>1 社会福祉とは</p> <p>2 日本の社会福祉の歴史</p> <p>3 社会保障制度と社会福祉の組織</p> <p>4 子ども福祉</p> <p>5 障害者福祉</p> <p>6 高齢者福祉</p> <p>7 介護保険制度</p> <p>8 低所得者福祉</p> <p>9 医療福祉</p> <p>10 精神保健福祉</p> <p>11 社会福祉施設</p> <p>12 社会福祉の専門職</p> <p>13 相談援助と実践例</p> <p>14 多職種間の連携と理学療法士の役割</p> <p>15 まとめ</p>					
成績評価	授業態度、レポート、ニュース発表、筆記試験による					
教科書	教科書：コメディカルのための社会福祉概論 第4版 講談社 ISBN-13: 978-4061563155					
参考書						
オフィス・アワー	授業終了後 10分					

科目名	物理学		対象年次	1年次	授業時間数	15
基礎科目 15			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	横山 洋之	所属	秋田大学 情報統括センター			
授業目的	物理学は科学的知識の基礎となる学問である。物理学の基本的な知識を幅広く学ぶことで、身の回りの物理現象がどのような仕組み・プロセスで起こっているのか理解することを目的とする。					
到達目標	1) 物理量を適切な単位で表現できる 2) 力、運動、仕事の関係について説明できる 3) 電気伝導現象について説明できる 4) 量子力学の基本的な考え方を説明できる					
授業計画	1回目： 位置・速度・加速度 物理量と単位、速度、加速度、等速運動、放物運動 2回目： 力と運動 (その1) 慣性、運動方程式、力と運動、重力 3回目： 力と運動 (その2) 作用・反作用、摩擦、等速円運動 4回目： エネルギーと運動量 エネルギー、仕事、バネ、振動、運動量保存則 5回目： 熱エネルギー 熱、熱平衡、理想気体の状態方程式、エントロピー 6回目： 電荷と電流 電荷、電気エネルギー、オームの法則、電気回路 7回目： 電磁場 波、電場、磁場、電磁場 8回目： 量子力学 量子力学とは、原子の構造、物質波					
成績評価	授業態度、小テスト、レポート、筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	「グラフィック講義 物理学の基礎」和田純夫、サイエンス社					
参考書	特に指定しない。					
オフィス・アワー	授業終了後10分程度					

科目名	情報セキュリティ・モラル		対象年次	1・2年次	授業時間数	15
基礎科目 17			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (選必)
担当教員名	片平 昌幸	所属	秋田大学 大学院 医学系研究科			
授業目的	日常生活や業務上で使用する各種の情報機器や情報サービスにおいて、特に注意しなければならない各種のセキュリティやモラルの問題についてその背景や対策について解説する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報セキュリティに関する基礎知識を習得する。</li> <li>2. 情報セキュリティ対策の手段について習得し活用できるようにする。</li> <li>3. 情報発信の際考慮しなければならないモラルや著作権等を習得する。</li> </ol>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報機器の基礎知識 (コンピュータの仕組みと構成)</li> <li>2. 情報セキュリティの基礎知識 (ネットワークのしくみ)</li> <li>3. 情報セキュリティの基礎知識 (情報サービスのしくみ)</li> <li>4. 情報セキュリティ技術 (マルウェアとその対策)</li> <li>5. 情報セキュリティ技術 (情報漏洩事故とその対策)</li> <li>6. 情報セキュリティに関する最近の話題</li> <li>7. 迷惑メール判定と電子メール転送経路解析法</li> <li>8. インターネットの情報発信と情報モラル・著作権</li> </ol>					
成績評価	小テスト, レポート, 期末試験結果等を総合的にみて判定					
教科書	講義資料を学内PC共有フォルダ及びWebサイトで公開します					
参考書	特に定めない					
オフィス・アワー	講義終了直後10分程度					

## 1 年次 専門基礎科目

科目名	人体構造学		対象年次	1年次	授業時間数	60
専門基礎 科目 18			開講時期	通年	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名	船越 広大	所属	元 秋田大学大学院医学系研究科			
授業目的	人体を構成する諸器官の位置・名称・機能について理解することを目的とする。					
到達目標	人体の構造について、人に説明できる能力を身につける。					
授業計画	<p><b>授業概要</b>  1回を2コマとして計画してある。  スライドと配布資料を中心に行う。  人体の構造を理解するためには、常に自分の体が最高の標本であるということを忘れてはいけない。質問は随時受け付けている。質問受付メールアドレスを講義中に示す。</p> <p>1回；人体の構成（細胞・組織・器官・器官系）、解剖学用語、骨学・筋学総論、関節と靭帯  器官系の概要（骨格系・筋系・消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・循環器系・内分泌系・神経系・感覚器系）  2回；全身の筋（上肢の筋・下肢の筋・体幹の筋）  3回；筋学各論 上肢の筋（上肢帯・上腕・前腕・手）  4回；筋学各論 下肢の筋（下肢帯・大腿・下腿・足）  5回；筋学各論 体幹の筋（頭部・頸部・胸部・腹部・背部）  6回；循環器系（心臓の構造とはたらき、全身の血管、リンパ管の役割）  呼吸器系（気道・肺の構成、胸郭内の構造）  7回；消化器系（口から肛門までの特徴・役割、嚥下の仕組み）  8回；泌尿器系（腎臓・尿管・膀胱・尿道の構造と役割、排尿反射）  9回；内分泌系（ホルモンの産生部位とその作用）  生殖器系（男性生殖器と女性生殖器）  10回；感覚器系（皮膚、視覚器、平行聴覚器）  11回；神経系（1）中枢神経系（脳・脊髄）の構造と伝導路  12回；神経系（2）末梢神経系（自律神経系、脳神経・脊髄神経）  13回；神経叢（頸神経叢・腕神経叢・腰神経叢・仙骨神経叢）  14回；器官系まとめ  15回；筋学・骨学まとめ</p> <p>上記回数と内容は、適時変更がある。特に標本見学によってずれることがある。単元終了ごとに復習を兼ねて小テストを行う。</p>					
成績評価	授業態度、小テスト、レポート、筆記試験等の結果を総合的にみて判定					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学（医学書院） PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎 解剖学（羊土社）					
参考書	プロメテウス解剖学 コア アトラス 第2版（医学書院）					
オフィス・アワー	授業終了後 10分					

科目名	人体構造学実習		対象年次	1年次	授業時間数	60
専門基礎 科目 19			開講時期	通年	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	船越 広大	所属	元 秋田大学大学院医学系研究科			
授業目的	人体構造学講義の内容をより詳しく理解する。					
到達目標	骨の各部の名称、筋の起始・停止・作用を理解し、説明できるようにする。					
授業計画	<p><b>実習概要</b>  人体構造学講義で学んだ内容をより深く理解することを目的とする。  実習はスケッチ・レポート課題・人体解剖学標本見学などを行う。  実習内容はその日の人体構造学講義の内容に応じて以下の項目を行う。</p> <p><b>骨学実習</b>；スケッチを主に行う。形状と部位の名前を覚える。  (1) 脊柱（環椎・軸椎・第7頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨）  (2) 上肢（鎖骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨）  (3) 下肢（骨盤・大腿骨・脛骨・腓骨・足根骨）  (4) 頭蓋骨・胸郭</p> <p><b>筋学実習</b>；スケッチとレポート課題で構成。起始・停止を理解する。  (5) 上肢の筋（上肢帯・上腕・前腕・手）  (6) 下肢の筋（下肢帯・大腿・下腿・足）  (7) 体幹の筋（頭部・頸部・胸部・腹部・背部）</p> <p><b>器官系</b>；スケッチとレポート課題で構成。  (8) 心臓  気道・肺  (9) 口腔・咽頭・喉頭・食道・胃・肝臓・胆のう・膵臓・小腸・大腸  (10) 腎臓・尿管・膀胱・尿道  (11) 内分泌系・生殖器系  (12) 感覚器系  (13) 神経系 (1) 中枢神経系（脳・脊髄）  (14) 神経系 (2) 末梢神経系（自律神経系・脳神経・脊髄神経）  (15) 伝導路</p> <p><b>秋田大学解剖学実習室標本見学</b>  身体の構造を具体的にかつ立体的に把握することを目的とする。  学んでいないところも予習しておくこと（予習項目は事前に告知する）。  標本見学は2回に分けて行う。前もって観察項目を提示するので、観察準備を  しておくこと（特に筋肉の走行・付着部位と神経脈管の走行）。  実習室内へは観察項目のプリント、スケッチ用紙、筆記具以外の持ち込みは許  可しない。携帯電話や撮影・録画・録音が可能な機器の持ち込みは厳禁である。</p>					
成績評価	授業態度、スケッチ、レポート課題などを総合的にみて判定					
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学（医学書院） PT・OT ビジュアルテキスト専門基礎 解剖学（羊土社）					
参考書	プロメテウス解剖学 コア アトラス 第2版（医学書院）					
オフィス・アワー	授業終了後 10分					

科目名	人体機能学		対象年次	1年次	授業時間数	60		
専門基礎科目 20			開講時期	前期	単位数 (必・選)	2 (必)		
担当教員名	榎山 日出樹	所属	秋田リハビリテーション学院					
授業目的	理学療法学の基礎科目となる人体の機能は、理学療法士が患者さんを評価し治療プログラムを立案するための基礎となる科目である。理学療法士がヒトである患者さんを観察分析することにより得られる情報は、臨床場面で随時行われ治療に欠かせない。人体の機能とあわせて、人体の構造も理解を深めることで、自ずと病態の生理も理解できるようになる。この人体機能学では、単なる人体機能の説明にとどまらず、臨床医学と基礎医学の理解にまで意識した実学としての修得を目的とする。							
到達目標	人体の機能を動物機能と、生命維持に直接関わる植物機能の側面から、ヒトが恒常性を備えていることを理解する。さらに無数に存在する感覚器等の情報を無意識に中枢神経系が統合し、高次の情報制御により、正常な生体の営みが生じていることを理解する。							
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 人体機能総論  2. 細胞の機能  3. 血液組成と機能(高地トレーニングと貧血)  4. 血液の凝固と線維素溶解  5. 血液型と抗原抗体反応  6. 循環 (1) 心臓の性質と心電図  7. 循環 (2) 血管の性質  8. 循環 (3) 血圧とその調節  9. 呼吸 (1) ガス交換  10. 呼吸 (2) 呼吸調節  11. 消化吸収 (1) 運動と分泌  12. 消化吸収 (2) 消化酵素と吸収  13. 腎臓 (1) 尿、再吸収機構と液性調節  14. 腎臓 (2) 排尿と神経性調節  15. 体液組成と体液量  16. 体液 浸透圧とその調節機構  17. 体液 酸塩基平衡 (1) 緩衝作用  (2) 水素イオン濃度異常 </td> <td style="vertical-align: top;"> 18. 内分泌 (1) 視床下部ホルモンと下垂体  19. 内分泌 (2) 各種ホルモンと作用機序  20. 骨・筋と運動 (1) 関節形状、運動単位  21. 骨・筋と運動 (2) 興奮収縮連関、22. 筋収縮メカニズム  23. 神経 (1) 構造と機能  (ニューロン、活動電位)  24. 神経 (2) 中枢神経の構造と機能  (脊髄の構造と反射)  25. 神経 (3) 中枢神経の構造と機能  (脳の構造と機能局在、脳脊髄液)  26. 感覚 (1) 体性感覚  27. 感覚 (2) 特殊感覚 (嗅覚, 視覚)  28. 感覚 (3) 特殊感覚 (聴覚, 平衡覚, 味覚)  30. 感覚 (4) 痛み (疼痛)  31. 体温調節 </td> </tr> </table>						1. 人体機能総論 2. 細胞の機能 3. 血液組成と機能(高地トレーニングと貧血) 4. 血液の凝固と線維素溶解 5. 血液型と抗原抗体反応 6. 循環 (1) 心臓の性質と心電図 7. 循環 (2) 血管の性質 8. 循環 (3) 血圧とその調節 9. 呼吸 (1) ガス交換 10. 呼吸 (2) 呼吸調節 11. 消化吸収 (1) 運動と分泌 12. 消化吸収 (2) 消化酵素と吸収 13. 腎臓 (1) 尿、再吸収機構と液性調節 14. 腎臓 (2) 排尿と神経性調節 15. 体液組成と体液量 16. 体液 浸透圧とその調節機構 17. 体液 酸塩基平衡 (1) 緩衝作用 (2) 水素イオン濃度異常	18. 内分泌 (1) 視床下部ホルモンと下垂体 19. 内分泌 (2) 各種ホルモンと作用機序 20. 骨・筋と運動 (1) 関節形状、運動単位 21. 骨・筋と運動 (2) 興奮収縮連関、22. 筋収縮メカニズム 23. 神経 (1) 構造と機能 (ニューロン、活動電位) 24. 神経 (2) 中枢神経の構造と機能 (脊髄の構造と反射) 25. 神経 (3) 中枢神経の構造と機能 (脳の構造と機能局在、脳脊髄液) 26. 感覚 (1) 体性感覚 27. 感覚 (2) 特殊感覚 (嗅覚, 視覚) 28. 感覚 (3) 特殊感覚 (聴覚, 平衡覚, 味覚) 30. 感覚 (4) 痛み (疼痛) 31. 体温調節
1. 人体機能総論 2. 細胞の機能 3. 血液組成と機能(高地トレーニングと貧血) 4. 血液の凝固と線維素溶解 5. 血液型と抗原抗体反応 6. 循環 (1) 心臓の性質と心電図 7. 循環 (2) 血管の性質 8. 循環 (3) 血圧とその調節 9. 呼吸 (1) ガス交換 10. 呼吸 (2) 呼吸調節 11. 消化吸収 (1) 運動と分泌 12. 消化吸収 (2) 消化酵素と吸収 13. 腎臓 (1) 尿、再吸収機構と液性調節 14. 腎臓 (2) 排尿と神経性調節 15. 体液組成と体液量 16. 体液 浸透圧とその調節機構 17. 体液 酸塩基平衡 (1) 緩衝作用 (2) 水素イオン濃度異常	18. 内分泌 (1) 視床下部ホルモンと下垂体 19. 内分泌 (2) 各種ホルモンと作用機序 20. 骨・筋と運動 (1) 関節形状、運動単位 21. 骨・筋と運動 (2) 興奮収縮連関、22. 筋収縮メカニズム 23. 神経 (1) 構造と機能 (ニューロン、活動電位) 24. 神経 (2) 中枢神経の構造と機能 (脊髄の構造と反射) 25. 神経 (3) 中枢神経の構造と機能 (脳の構造と機能局在、脳脊髄液) 26. 感覚 (1) 体性感覚 27. 感覚 (2) 特殊感覚 (嗅覚, 視覚) 28. 感覚 (3) 特殊感覚 (聴覚, 平衡覚, 味覚) 30. 感覚 (4) 痛み (疼痛) 31. 体温調節							
成績評価	授業態度, 課題レポート, 筆記試験の結果を総合的にみて判定。 試験日: 中間試験をミッドセメスター終了後に実施予定。最終試験は前期末に実施し、合計平均が6割に満たない場合、再履修となる。							
教科書	坂井建雄他「解剖生理学 人体の構造と機能」医学書院							
副読本	生体のしくみ 標準テキスト 新しい解剖生理 (電子書籍) 丸善							
参考書	本郷利憲他「標準生理学」医学書院,							
オフィス・アワー	随時							

科目名			対象年次	1年次	授業時間数	45
専門基礎 科目 21	人体機能学実習		開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	吉崎 克明	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	人体機能学で修得したヒトの生体機能についての知識を検証し、生体现象に対する観察力及び機能と機序に対する理解を深めること、さらに各自健常人を対象とした身体機能検査の基本的手法を修得し、専門科目・臨床実習に効果的に対応できる能力を身につける。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 細胞外導出法による神経の活動電位の記録から神経線維の特性を理解する。</li> <li>(2) 骨格筋の収縮を観察し、収縮機序を理解する。</li> <li>(3) 心電図、心音、脈音の記録から、人体機能学で学んだ循環動態を理解する。</li> <li>(4) 血圧測定ができるようになり、測定条件（運動時と安静時、計測部位）の影響を調べ、血圧の生理学的意味を理解する。</li> <li>(5) 換気機能について、実際に測定して種々の呼吸物理量を計測し、換気量、肺活量、予備量等を理解する。</li> <li>(6) 脳波を記録し、アルファ波、ベータ波等の周波数の異なる波形が異なる脳活動状態を示していることを理解する。自律神経作用と発汗の関係を観察する。</li> </ul>					
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 神経の活動電位 摘出座骨神経（カエル）の電気刺激で誘発する細胞外導出法による活動電位の記録、観測する。</li> <li>(2) 筋の機械的反応 ヒト骨格筋と神経の関係について調べる。神経の役割、神経伝導速度、筋電図について観察、計測する。</li> <li>(3) 心電図、心音、脈音の記録及び血圧曲線との関係 心電図、心音、脈音、心拍、血圧の記録から、それぞれ記録されるバイタル信号の関係を観察する。</li> <li>(4) 血圧測定をいろいろな条件下で計測し、血圧変動を観察する。</li> <li>(5) 呼吸気的气体組成、換気機能検査 呼吸気分析装置を用いて、呼吸曲線を計測し、呼吸曲線の各要素を観察する</li> <li>(6) 脳波の記録と読み方 脳波を記録し、覚醒波、瞑想時の波形を検出し、刺激への反応による波形変化を観察する。自律神経作用を発汗現象、心臓活動状態を介して観察する。</li> </ul>					
成績評価	実習態度、レポート、等の結果を総合的にみて判定。					
参考書	新生理学実習書（日本生理学会編）					
オフィス・アワー	実習時間中					

科目名	運動生理学		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門基礎科目 23			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	吉崎 克明	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	人体機能学で学んだ基礎知識をもとに、運動によって生じる生理学的変化に関わる動物機能を主体としながら、その生理的变化に対応した植物機能の協調的、統合的な関わりも学ぶ。					
到達目標	(1) 運動とエネルギー代謝の関係を理解する。 (2) 運動と心肺機能との関係を理解する。 (3) 有酸素運動と無酸素運動の生理学的意味を理解する。 (4) 運動に関わる液性・神経性調節について理解する。 (5) 運動による筋肉と骨変化について理解する。 (6) 加齢に伴う運動機能変化を理解する。 (7) 運動と精神活動及び休息の観点から睡眠について理解する。					
授業計画	健康の維持や機能向上を図ることを目的とした運動は、相当のエネルギーを要し、種々の器官が協調しながら行われるため、身体機能に及ぼす影響は大きく、また継続的な運動は身体的・生理的变化だけでなく、精神活動に与える影響も大きい。また加齢や老化とともに運動の内容も異なる。運動に重点をおいて、エネルギー代謝、呼吸機能、循環機能、内分泌機能、筋肉・骨状態、加齢と老化等に与える生理学的影響を掘り進める。  1. 生体エネルギー産生 (1), 2. 運動と基礎代謝・呼吸商・エネルギー消費量との関係 (2), 3. 運動と呼吸・循環 (3), 4. 無酸素運動と有酸素運動 (2), 5. 運動とホルモンの関係 (1), 6. 運動と神経の関係 (2), 7. 運動と筋肉・骨 (2), 8. 仰臥・不使用の生理学 (1), 9. 運動と加齢・寿命 (1) の順で進める予定である。( )内は予定講義コマ数。					
成績評価	授業態度, レポート, 筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	・「健康・体力のための運動生理学」石河利寛著 杏林書院, ・「運動生理学概論」					
参考書	[参考書] ・「運動生理学概論」浅野勝己著 杏林書院 ・「運動生理学 生理学の基礎から疾病予防まで」小山勝弘他編 三共出版 ・「運動とスポーツの生理学」北川薫 市村出版 ・「ニュー運動生理学 I, II」宮村実晴編 真興交易医書出版					
オフィス・アワー	授業終了後1時間以内					

科目名	運動学 I (上肢・体幹)		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門基礎 科目 24			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	籾山 日出樹	所属	秋田リハビリテーション学院			
	伊藤 昭	所属	同上			
授業目的	運動学とは人体の動きに関する科学である。運動学では人体がどう機能し、動くかに焦点をあてる。筋骨格系の構造・機能との関係、身体に加わる力との関わり、身体運動発現とその制御機能を解剖学、生理学、力学的観点から学び理解することを目的とする。					
到達目標	1. 運動学の基礎（骨・筋・神経）を理解できる 2. 上肢帯の運動の基礎を理解できる 3. 脊柱体幹の運動の基礎を理解できる					
授業計画	1. 生体力学 【籾山】 2. 骨・関節の構造と機能 【伊藤】 3. 筋の種類と構造と機能 【伊藤】 4. 神経系の構造と機能 【籾山】 5. 肘関節の運動1 【籾山】 6. 肘関節の運動2 【籾山】 7. 前腕と手関節の運動1 【籾山】 8. 前腕と手関節の運動2 【籾山】 9. 前腕と手関節の運動3 【籾山】 10. 上肢帯と肩関節の運動1 【伊藤】 11. 上肢帯と肩関節の運動2 【伊藤】 12. 上肢帯と肩関節の運動3 【伊藤】 13. 脊柱体幹の運動学1 【伊藤】 14. 脊柱体幹の運動学2 【伊藤】 15. 顔面と頭部の運動学 【籾山】					
成績評価	授業態度，レポート，筆記試験結果等を総合的にみて判定。					
使用教科書	中村 隆一著，基礎運動学 第6版 医歯薬出版 ISBN 978-4263211533					
参考書	小柳 磨毅著，PT・OTのための運動学テキスト：基礎・実習・臨床 金原出版 ISBN 978-4307750448 石川 朗著，運動学 15 レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト，中山書店 ISBN 978-4-521-73664-8					
オフィス・アワー	昼休み					

科目名	栄養学		対象年次	1年次	授業時間数	15
専門基礎 科目 27			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	谷口 典子	所属	BF ホールディングス株式会社			
授業目的	健康の保持・増進のための食事に関する基本的な知識を習得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養学の基本的事項を理解する。</li> <li>2. 健康の保持・増進や疾病予防と栄養との関連を理解する。</li> <li>3. ライフステージや疾病に応じた栄養療法について理解する。</li> </ol>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養の概念／栄養素とその機能 1 (食物の消化吸収と糖質の栄養)</li> <li>2. 栄養素とその機能 2 (たんぱく質、脂質の栄養)</li> <li>3. 栄養素とその機能 3 (ビタミン、ミネラルの栄養 / 水分代謝、エネルギー代謝)</li> <li>4. ライフステージと栄養 (成長期、成人期、高齢期、妊娠授乳期)</li> <li>5. 疾病と栄養 1 (病院での食事/消化器疾患、呼吸器疾患)</li> <li>6. 疾病と栄養 2 (代謝疾患、循環器疾患、腎疾患、血液疾患、アレルギー疾患、リハビリテーションと栄養)</li> <li>7. 健康づくりと食生活 1 (日本人の食事摂取基準、食生活指針、各食品群の特色、食品成分表)</li> <li>8. 健康づくりと食生活 2 (保健機能食品制度/まとめ)</li> </ol>					
成績評価	受講態度 20% 筆記試験 80%					
使用教科書	「コンパクト栄養学 改定第4版」南江堂					
参考書						
オフィス・アワー						

科目名	人間発達学		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門基礎 科目 29			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	佐々木 久長	所属	秋田大学大学院医学系研究科			
授業目的	人間の生涯にわたる発達過程を知ることを通して、障がいにより正確に理解する。					
到達目標	乳幼児期から老年期に至る各発達段階の特徴を説明できる。 主な発達理論を理解することができる。 生涯発達という視点から障がいを理解することができる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達とは何か 発達の定義、発達の原理、発達課題</li> <li>2. 発達の理論（1） エリクソンの心理社会的発達理論</li> <li>3. 発達の理論（2） フロイトの心理学的発達理論</li> <li>4. 発達の理論（3） ゲゼルの発達理論、ウェルナーの発達理論</li> <li>5. 発達の理論（4） ピアジェの認知発達理論</li> <li>6. 発達の理論（5） 言語の発達理論</li> <li>7. 乳幼児期の発達 身体・運動、社会性（ウィニコットの母子関係を中心に）</li> <li>8. 児童期の発達 身体・運動、社会性（アタッチメントを中心に）</li> <li>9. 青年期の発達 身体・運動、社会性（自我同一性の発達を中心に）</li> <li>10. 成人期の発達 身体・運動、社会性（道徳性の発達を中心に）</li> <li>11. 老年期の発達 身体・運動、社会性（喪失の心理を中心に）</li> <li>12. 発達の理論（6） 死に対する態度と理解の発達</li> <li>13. 発達の障がい（1） 障がいの基本的理解</li> <li>14. 発達の障がい（2） 発達障がいについて</li> <li>15. リハビリテーションと発達</li> </ol>					
成績評価	授業態度，小テスト，レポート，筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	特に指定しない。					
参考書	特に指定しない。					
オフィス・アワー	授業中					

科目名	病理学		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門基礎科目 31			開講時期	後期	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名	川村 公一	所属	早稲田大学 先進理工学部			
授業目的	病気は「得体のしれないもの」ではなく、体の中に正常（健康体）とは異なる現象が起きている。その病気には規則があって、その振る舞いも、ある程度予測ができる。この体の中に起きている病気の山を眺め、大きな道筋をつかむ。					
到達目標	病気の成り立ちを大筋で理解して、病気の臓器を説明できる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気のとくに、どんなことが体の中に起きているか理解できれば、病気の人を見る目が変わってくるはずである。この病気の成り立ちについて実際の画像・イラストなどを使って解説する。</li> <li>2. 病気の種類がわかり、その成り立ちに見当がつくようになる。しかし、病気の名前、用語には歴史があり、難解でとっつきにくい面もある。理解しやすいように肝硬変、脳卒中、胃がんなどの具体的な症例をあげて説明する。</li> <li>3. 授業内容の概略、要点は事前に配付する。復習を主体とする自主学習を促す。</li> </ol> <p>講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患の成り立ち（内因と外因）</li> <li>2. 老化、肝硬変</li> <li>3. 生活習慣病と遺伝子</li> <li>4. 壊死、生命の危機</li> <li>5. 萎縮、肥大、化生、創傷治癒</li> <li>6. 心筋梗塞とその治り方</li> <li>7. 萎縮、肥大、化生、創傷治癒</li> <li>8. 血栓と塞栓</li> <li>9. 浮腫とネフローゼ症候群</li> <li>10. 脳卒中</li> <li>11. 先天異常、遺伝子病（優性遺伝病、劣性遺伝病）</li> <li>12. 配偶子病（染色体異常）と多因子遺伝</li> <li>13. 炎症と感染症</li> <li>14. 腫瘍の起こり方、形態的特徴</li> <li>15. 腫瘍により引き起こされる病態</li> </ol>					
成績評価	筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	系統看護学講座 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 (1) 医学書院 大橋健一, 他					
参考書	特に定めない。					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	医学概論		対象年次	1年次	授業時間数	15
専門基礎 科目 32			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	宮下 正弘	所属	介護老人保健施設 山盛苑			
授業目的	20世紀の医学は、ひたすら寿命を延ばすことに注がれてきた。21世紀の医学は健康寿命を延ばし、生活の質を高めることを目的とする。高齢社会の中での医療は、様々な職種の共同作業に依って成り立つ。そのための共通の土台・知識＝メディカルコモンセンスをこの科目の中で学んで欲しい。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学の歴史を学ぶ中で、どのように病気に向き合ってきたかを理解する。</li> <li>2. 人間のからだの造りと機能を語ることが出来るようにする。</li> <li>3. 病気の予防からリハビリテーションに到る過程と制度を理解する。</li> </ol>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学をどのようにとらえるか 医学の発達のすがたから古代から現在に到る医学の成り立ちを学ぶ。そして医療に係わる職種がどのように生まれてきたかを理解する。</li> <li>2. 社会保障や医療保険、現在の医療制度と問題点を学ぶ 健康とは何か、病気とは何か、医学の分化と統合について理解する。</li> <li>3. 病気の予防について、健康日本21や特定健診制度、産業保健や勤労者医療など、病気に至らせないためにどのような取り組みがされているか制度的な仕組みを知る。</li> <li>4. 生まれてから死ぬまでの心身の発達と学校保健や高齢者医療など、生涯の医療システムや介護保険制度について学ぶ。</li> <li>5. リハビリに関わる医療職をはじめとするチーム医療について学び、併せて医療安全の思想を学ぶ。</li> <li>6. 生命倫理と言われる領域の現代抱えている問題について学び、「医の倫理」と「患者の権利」について知る。医学研究の在り方についても学ぶ。</li> <li>7. 災害医療や国際医療協力などについて学ぶ。</li> <li>8. 医療と法律について、基本的なことを学ぶ。</li> </ol> <p>教科書を必ず持参すること。 教科書を中心に授業を進めるが、補助的にプリントを用意して理解しやすいように努めて行くつもりである。</p>					
成績評価	授業態度，小テスト，レポート，筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	柳澤信夫 著「現代医学概論 第2版」(医歯薬出版) 2015.					
参考書	特に設けないが医療関係のニュースに関心を持つこと。					
オフィス・アワー	特に設けないが、講義後の質問を歓迎する。					

科目名	リハビリテーション 概論		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門基礎 科目 42			開講時期	前期	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員名	横山 絵里子	所属	秋田県立リハビリテーション・精神医療センター			
授業目的	リハビリテーションの基本を学ぶ。 今日のリハビリテーションに関わる様々な問題を体系的に学習し、リハビリテーションの理念、過程、障害のレベルや評価法などの基礎を習得して、専門分野に活用できるようにする。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門科目学習のために必要な基本的概念と知識を養う。</li> <li>・リハビリテーションの理念について説明ができる。</li> <li>・リハビリテーション関連の用語を理解し、説明できる。</li> <li>・機能障害のレベル、基本的な測定・評価法について理解、説明ができる。</li> </ul>					
授業計画	<p>第1回 ・リハビリテーションの定義、概念、理念、歴史について ・障害、障害者、障害予防について</p> <p>第2回 ・リハビリテーション医療の対象、関連職種、チーム医療 ・地域リハビリテーション</p> <p>第3回 ・日常生活動作（活動）の概念と評価 ・医学的リハビリテーション</p> <p>第4回 ・理学療法概論（リハ治療の基礎と応用）</p> <p>第5回 ・作業療法概論（評価、上肢機能訓練、自助具など）</p> <p>第6回 ・言語聴覚学概論（失語症、構音障害、嚥下障害など） ・心理、高次脳機能概論（心理評価、心理療法など）</p> <p>第7回 ・医療安全、職業倫理、その他 ・リハビリテーション栄養、高齢者健康対策</p> <p>第8回目以降は、講義中にお知らせします。※試験予定日：7月9日</p>					
成績評価	授業態度、小テスト、レポート、筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	特に定めない。					
参考書	上好 昭孝、田島 文博著：リハビリテーション概論 改訂第3版、永井書店、2014年 ¥3240 ほか					
オフィス・アワー	質問等がある場合は、授業後10分間といたします。					

## 1 年次 専門科目

科目名	理学療法学概論		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門 科目 48			開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	靱山 日出樹	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法の基礎となる広義の領域を学習し、効果的な理学療法を可能とする背景や根拠を理解する。					
到達目標	①理学療法を科学的に説明・理解するために必要な知識を習得する。 ②理学療法の臨床思考過程の規範や根拠となる知識を習得する。 ③広義の運動障害に対する評価や治療に必要な知識を習得する。					
授業計画	1. 理学療法の概念、定義、歴史 2. 理学療法に求められる倫理と哲学 3. 理学療法と関連法規、職能団体と協会・組織、教育と研究 4. 理学療法の過程、意義と役割 5. 理学療法体系 運動療法 6. ” 物理療法 7. ” 義肢装具 8. ” 日常生活活動 9. ” 地域理学療法 10. 理学療法とリーズニング 11. 理学療法学に関連した応用科学 12. 理学療法と心理的対応 13. チーム医療と関連職種 14. 世界の理学療法 15. 理学療法の職域開拓					
成績評価	授業態度，レポート等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	奈良勲編著：理学療法概論 第7版；医歯薬出版					
参考書						
オフィス・アワー	授業終了後、及び必要に応じて、いつでも。					

科目名			対象年次	1年次	授業時間数	30
専門 科目 50	理学療法学スキル I-1		開講時期	前期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員	学内専任教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法学スキルは1～3年生の3学年とアドバイザー教員との合同による協働授業・演習であり、理学療法士として必要な職業人格を育むために科目内の課題学習をとおり、接遇、社会人基礎能力、課題解決能力、主体的協働能力の育成・発達を目的とする。					
到達目標	授業課題への取り組み（課題・調査・発表の実施と運営、リフレクションによる課題省察）を通して小集団における役割、責任を意識し、自ら主体的に課題到達のために考え、解決・遂行できる。必要に応じて積極的にコミュニケーションをとり円滑な課題遂行に勤めることができる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (4/9)オリエンテーション、アドバイザーグループ発表（グループ内自己紹介など）</li> <li>2. (4/16) 構成的グループエンカウンター1</li> <li>3. (4/23) 構成的グループエンカウンター2</li> <li>4. (4/30) 構成的グループエンカウンター3</li> <li>5. (5/7) オープンキャンパスと公開講座のオリエンテーション</li> <li>6. (5/14) オープンキャンパスと公開講座の準備運営1</li> <li>7. (5/21) オープンキャンパスと公開講座の準備運営2</li> <li>8. (5/28) オープンキャンパスと公開講座の準備運営3</li> <li>9. (6/2) 臨床実習報告会（7/30 振替）</li> <li>10. (6/11) 『接遇について』＜学外講師招聘＞</li> </ol> <p>11～15. ※5回分（6/18・6/25・7/2・7/9・7/16）は オープンキャンパス（6/29、7/27、8/24、9/21に振り替え）と公開講座に振替えのため振替休講。 7/30分を6/2に振替。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>（エンカウンターには“出会い”という意味があり、課題をとおりして、“気づき”に出会う事を目的としています。今まで気づかなかった事から学び、将来に生かす。どんな出会いがあるのでしょうか！?）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>（先輩たちと協力し合って、公開講座とOCを運営します。協力し合うことで、小集団における役割、責任を意識し、自ら主体的に課題到達のために考え、解決・遂行することを体験して学ぶことを目的としています。）</p> </div>					
成績評価	授業態度、シャトルカード提出、課題発表等の結果を総合的にみて判定。					
教科書・参考書	特になし					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名			対象年次	1年次	授業時間数	30
専門 科目 51	理学療法学スキル I-2		開講時期	後期	単位数 (必・選)	2 (必)
担当教員	学内専任教員	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	理学療法学スキルは1～3年生の3学年とアドバイザー教員との合同による協働授業・演習であり、理学療法士として必要な職業人格を育むために科目内の課題学習をとおり、接遇、社会人基礎能力、課題解決能力、主体的協働能力の育成・発達を目的とする。					
到達目標	授業課題への取り組み（課題・調査・発表の実施と運営、リフレクションによる課題省察）を通して小集団における役割、責任を意識し、自ら主体的に課題到達のために考え、解決・遂行できる。必要に応じて積極的にコミュニケーションをとり円滑な課題遂行に勤めることができる。					
授業計画	<p>1. (9/30) オリエンテーション（後期対し概要説明『社会人基礎能力』（各自チェック）『ジョハリの窓』</p> <p>2. (10/14) OSCE オリエンテーション：3年PT役、2年患者役、1年家族役；5case提示</p> <p>3～5. (10/21～11/4) OSCE 練習①～④</p> <p>6～7. (11/11、3・4限) OSCE(客観的臨床能力試験) I・II</p> <p>8. (11/18) 『秋田県の魅力』＜外部講師招聘＞</p> <p>9～10. (12/2～12/9) Pre-OSCE の説明と練習①②</p> <p>11. (12/17) 『アサーティブ・トレーニング』(自分も相手も大切に自己表現)＜外部講師招聘＞</p> <p>12～13. (1/6～1/13) Pre-OSCE の説明と練習③④</p> <p>14. (1/20) Pre-OSCE 1 (もしくは連続して同日にPre-OSCE実施)</p> <p>15. (1/30) Pre-OSCE 2</p>					
成績評価	授業態度、シャトルカード提出、課題発表等の結果を総合的にみて判定。					
教科書・参考書	特になし					
オフィス・アワー	授業終了後					

科目名	理学療法評価学概論		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門科目 59			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	靱山 日出樹	所属	秋田リハビリテーション学院			
	木元 裕介	所属	同上			
授業目的	理学療法は評価にはじまり、評価に終わるとされ、評価無くして理学療法は実施できない。評価そのものの意義や、方法についての概要を学び、各専門領域において必要な知識と技術について習得する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法における評価の概念と意義が理解できる。</li> <li>・理学療法評価と記録、評価と治療が一体のものであることが理解できる。</li> <li>・基本的な対象者のリスク管理、代表的な障害に対する“評価概念”を理解できる。</li> </ul>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法評価に必要な環境と評価機器・検査用具【靱山】</li> <li>2. 姿勢と動作に対する理学療法評価概要【靱山】</li> <li>3. 代表的な障害に対する理学療法評価概要1(中枢神経)【靱山】</li> <li>4. 代表的な障害に対する理学療法評価概要2(中枢神経)【靱山】</li> <li>5. 代表的な障害に対する理学療法評価概要3(中枢神経)【靱山】</li> <li>6. 代表的な障害に対する理学療法評価概要1(運動器)【木元】</li> <li>7. 代表的な障害に対する理学療法評価概要2(運動器)【木元】</li> <li>8. 代表的な障害に対する理学療法評価概要1(呼吸器)【木元】</li> <li>9. 代表的な障害に対する理学療法評価概要2(循環器)【木元】</li> <li>10. バイタルサインの理学療法評価【木元】</li> <li>11. 運動発達検査と姿勢反射検査【木元】</li> <li>12. 日常生活活動(動作)検査【木元】</li> <li>13. ICF(国際生活機能分類)による評価【木元】</li> <li>14. 評価の記録方法(SOAP) 演習【木元】</li> <li>15. ケースレポートとレジユメの記載方法【木元】</li> </ol>					
成績評価	授業態度, 小テスト, レポート, 筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書・参考書	教科書: 松澤正・江口勝彦著; 理学療法評価学 改訂第5版(金原出版) 肉単・骨単—ギリシャ語・ラテン語(語源から覚える解剖学英単語集(筋肉編)) 原島 広至(丸善)					
オフィス・アワー	授業終了後 10 分間					

科目名			対象年次	1年次	授業時間数	30
専門 科目 60	理学療法評価学(基礎)		開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	靱山 日出樹	所属	秋田リハビリテーション学院			
	木元 裕介	所属	同上			
授業目的	検査データや画像内容から得られる医学的情報は、理学療法士が患者の障害像を把握するうえで重要な情報となる。人体構造学や人体機能学と並行して、検査データや画像がもたらす意味を概略的に学ぶことにより、臨床の医学的情報を基礎医学の学習とあわせて理解する。					
到達目標	正常と異常の違いを画像情報・臨床データをみて判別し、異常部位・異常データから、どんな問題が生じているのか理解できる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学的情報の理解とリスク管理1【靱山】</li> <li>2. 医学的情報の理解とリスク管理2【靱山】</li> <li>3. 臨床検査値(血液)の診かた1【靱山】</li> <li>4. 臨床検査値(血液)の診かた2【靱山】</li> <li>5. 臨床検査値の(生化学)診かた(総論)【靱山】</li> <li>6. 臨床検査値の(生化学)診かた(各論)【靱山】</li> <li>7. X線像の診かた(総論)【靱山】</li> <li>8. X線像の診かた(各論)【靱山】</li> <li>9. CT・MRI像の診かた(総論)【木元】</li> <li>10. CT・MRI像の診かた(各論)【木元】</li> <li>11. 脳の機能構造と疾患、それらに対する理学療法【木元】</li> <li>12. 筋骨格の機能構造と疾患、それらに対する理学療法①【木元】</li> <li>13. 筋骨格の機能構造と疾患、それらに対する理学療法②【木元】</li> <li>14. QOL・ADLと理学療法のかかわり【木元】</li> <li>15. 疼痛のメカニズムと評価、それに対する理学療法【木元】</li> </ol>					
成績評価	授業態度, 小テスト, レポート, 筆記試験結果等を総合的にみて判定.					
教科書・参考書	<p>教科書: 指定しない。授業時に資料配布する。</p> <p>参考書:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中島雅美; PT・OT 基礎から学ぶ画像の読み方第2版, 医歯薬出版</li> <li>・瀬本 喜啓; 臨床に役立つ四肢・脊柱の断層解剖アトラス, 南江堂</li> <li>・市川博雄; 症状・経過観察に役立つ 脳卒中画像のみかた, 医学書院</li> <li>・亀田ゲイカルセンター; リハビリテーションリスク管理ハンドブック, MEDICAL VIEW</li> </ul>					
オフィス・アワー	授業終了後 10分					

科目名	日常生活活動学		対象年次	1年次	授業時間数	30
専門科目 83			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)
担当教員名	ジョーンズ佳子	所属	秋田リハビリテーション学院			
授業目的	我々が、日々恙無く行っている日常生活における活動（基本動作～応用動作～複合動作）について、その評価、指導方法、補装具、福祉用具等を学習することで、障がい者や障がい児、高齢者の理解を深める。そして、対象者を取り巻く様々な環境について考察することで、日常生活面での障害との関係について学ぶことを目的とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活活動（Activities of Daily Living 以下、ADL）の概念とその範囲について学び、理学療法における ADL の位置づけを理解する。</li> <li>2. “障がい”の捉え方から ADL と QOL (Quality of life) の関連を理解する。</li> <li>3. ADL の評価の役割や評価方法、および代表的な評価尺度について理解する。</li> <li>4. 対象者の特性や障害に応じた、自立を促すための支援方法を習得する。</li> </ol>					
授業計画	<p>第1回 日常生活活動の概念：ADL と障害、ADL と QOL の関係</p> <p>第2回 ADL 評価－概論：目的と代表的な評価表</p> <p>第3回 ADL 評価－各論：B. I と F I M を中心とした評価方法</p> <p>第4回 起居動作（1）：運動学的分析（重心、ベクトル、モーメント、支持基底面） 起居動作（2）：寝返り～起き上がり～立ち上がり（椅子から、床から）</p> <p>第5回 移動動作（基本/応用）：いざり、高這い、四つ這い、膝歩き、前後歩行</p> <p>第6回 起居・移動動作実習・・・2階講堂にて</p> <p>第7回 移動動作：車いすの種類・寸法・駆動・介助方法</p> <p>第8回 移動動作：歩行補助具（各種杖、歩行器、歩行車など）</p> <p>第9回 移動・移乗動作実習・・・1階治療室にて</p> <p>第10回 食事動作 ※課題レポート：疾患別 ADL の特徴</p> <p>第11回 排泄・トイレ動作</p> <p>第12回 整容・入浴動作</p> <p>第13回 更衣動作、家事動作</p> <p>第14回 コミュニケーション</p> <p>第15回 総括（課題レポート発表）</p>					
成績評価	授業態度、小テスト、レポート、筆記試験等の結果を総合的にみて判定。					
教科書	・奈良勲監修・鶴見隆正・隆島研吾編集：日常生活活動学・生活環境学（標準理学療法学専門分野） 第5版. 医学書院、2017. ISBN 978-4260032568					
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤利之・江藤文夫：日常生活活動(ADL)－評価と支援の実際－. 医歯薬出版、2010. ISBN9784263213445.</li> <li>・細田多穂：シンプル理学療法シリーズ；日常生活活動学テキスト. 南江堂、2011. ISBN9784524247080.</li> <li>・藤澤宏幸：日常生活活動の分析－身体運動学的アプローチ－. 医歯薬出版、2012. ISBN9784263214008.</li> <li>・柴 喜崇：PT・OT ビジュアルテキストADL. 羊土社、2015. ISBN9784758107952.</li> </ul>					
オフィス・アワー	月曜日、水曜日～金曜日のお昼休み時間内いつでも。					

科目名	基礎実習		対象年次	1年次	授業時間数	40																																
専門科目 90			開講時期	後期	単位数 (必・選)	1 (必)																																
担当教員名	全教員	所属	秋田リハビリテーション学院																																			
授業目的	基礎実習において理学療法業務全般を見学することにより、理学療法士に必要とされる知識・技術・態度について知ることを目的とする。																																					
到達目標	<p>学修目標：見学先の医療機関としての理念や特色を踏まえ、理学療法士に臨まれる役割を理解することができる。</p> <p>行動目標：将来、理学療法士として働くことを意識した行動に努め、見学させていただく患者さんや職員の方々へ挨拶、時間厳守、適切なコミュニケーションなど医療従事者にふさわしい態度をとることができる。</p>																																					
授業計画	<p>・1月（未定） 実習ガイダンス</p> <p>・2月（未定） 実習1週間</p> <p>*学生それぞれが、本学院の教員引率のもと、承諾施設2か所へ赴く。</p> <p>*実習先は秋田市内6か所で、1施設1回3~4人ずつ配置する。</p> <table border="1" data-bbox="368 1088 1444 1505"> <thead> <tr> <th>実習先</th> <th>引率教員</th> <th>ロテーション月・火</th> <th>木・金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>靱山</td> <td>A1 (3)</td> <td>B1 (3)</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>木元</td> <td>A2 (3)</td> <td>B2 (3)</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>山崎</td> <td>A3 (3)</td> <td>B3 (3)</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>伊藤</td> <td>A4 (3)</td> <td>B4 (3)</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>ジョーンズ</td> <td>A5 (4)</td> <td>B5 (4)</td> </tr> <tr> <td>F</td> <td>富田</td> <td>A6 (4)</td> <td>B6 (4)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>約20人</td> <td>約20人</td> </tr> </tbody> </table>						実習先	引率教員	ロテーション月・火	木・金	A	靱山	A1 (3)	B1 (3)	B	木元	A2 (3)	B2 (3)	C	山崎	A3 (3)	B3 (3)	D	伊藤	A4 (3)	B4 (3)	E	ジョーンズ	A5 (4)	B5 (4)	F	富田	A6 (4)	B6 (4)			約20人	約20人
実習先	引率教員	ロテーション月・火	木・金																																			
A	靱山	A1 (3)	B1 (3)																																			
B	木元	A2 (3)	B2 (3)																																			
C	山崎	A3 (3)	B3 (3)																																			
D	伊藤	A4 (3)	B4 (3)																																			
E	ジョーンズ	A5 (4)	B5 (4)																																			
F	富田	A6 (4)	B6 (4)																																			
		約20人	約20人																																			
成績評価	実習への参加と態度、レポートの提出結果を総合的にみて判定。																																					
準備学習・学習アドバイス	実習実施前には挨拶、身だしなみなどの常識のある実習態度を再確認しておく必要がある。また、見学先施設の理念や徳所を踏まえ見学するために、事前に見学施設を調査しておくこと。																																					
教科書	特に指定なし																																					
参考書	必要に応じて提示する																																					
オフィス・アワー	担当教員ごとに指示、あるいは掲示																																					



学校法人コア学園  
秋田リハビリテーション学院  
理学療法学科  
2020年度 授業計画（シラバス）  
〒010-0065  
秋田市茨島1丁目4番80号  
TEL.018-865-0188 FAX.018-864-6137  
<http://www.core-akita.ac.jp/arc/index.php>